



# 『東北圏だより』

## 大型商業施設が続々開店～市街地の復興に向けて

岩手復興局

平成29年3月11日で、東日本大震災から6年が経過しました。被災地での復興に向けた動きは着実に進行しています。

陸前高田市では、4月27日、陸前高田市高田町の中心市街地再生に向けたかさ上げ地に、大型商業施設「アバッセたかた」が開業しました。「あばっせ」は、「一緒に行こう」という意味の地元の方言。延べ床面積約8,000㎡の中に、震災後、仮設店舗で営業を行っていた地元企業を含めた計21店舗が一体となり、商業の核施設として整備されました。また、隣接する公園「まちなか広場」の一部もこの日、供用を開始しました。



▲アバッセたかた・まちなか広場オープン記念式典  
（4月27日 陸前高田市）

午前9時のオープンを前に記念式典が行われ、この日を心待ちにしていた多くの市民・関係者が集まり、街づくり加速への大きな一歩を祝いました。

また、施設周辺では、7月に図書館が開館予定であり、また、本年度内にも順次本設店舗を再建・営業を始める事業者もあり、地域のにぎわいの拠点として新たな交流の場となることでしょう。

大船渡市でも、4月29日、JR大船渡駅周辺地区で、かさ上げて整備した中心市街地に、被災した店舗など計28店舗が入居する商業施設と、18の店で構成される共同店舗が一斉にオープンしました。商業施設は、「キャッセン・フードビレッジ」と「キャッセン・モール&パティオ」からなる、物販・飲食店、ライブハウスなどを備えた延べ床面積約3,600㎡の複合商業施設です。「キャッセン」は「いらっしゃい」という意味の地元の方言です。隣接する共同店舗「おおふなと夢商店街」は、延べ床面積約1,400㎡で、仮設商店街に入居していた方が中心に出店しています。オープン当日には、まちびらきセレモニーが開催され、多くの市民らでにぎわいました。すでに施設周辺に開業しているホテルやスーパーとともに、復興の拠点となることが期待されます。



▲大船渡駅周辺地区第2期まちびらきセレモニー  
（4月29日 大船渡市）

今回ご紹介した2つの施設は、まちなか再生計画に基づき建設されました。まちなか再生計画は、被災地域の中心市街地において、被災事業者が共同で入居する商業施設整備の概要を定めるとともに、公共施設等の整備、来街者導線の確保など周辺のまちづくりを一体的に進めるための計画です。これに位置付けられた商業施設等の整備は、商業施設等復興整備補助金の申請ができます。

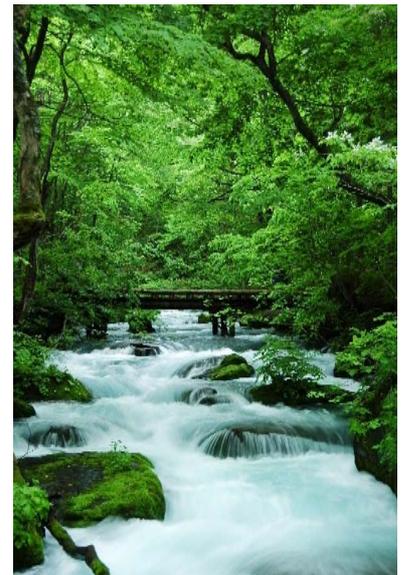
今後とも被災地に寄り添い、復興に向けて取り組んで参りますので、引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

環境省では、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を図ることを方針とし、平成32年（2020年）までに訪日外国人を惹きつける取組を計画的かつ集中的に実施し、国立公園を訪れる外国人を1,000万人に増やすための「国立公園満喫プロジェクト」を進めることになり、全国の国立公園の中で先行的に取組を実施する国立公園として十和田八幡平国立公園が選定されました。このたび、具体的な取組のロードマップとして「十和田八幡平国立公園ステップアッププログラム2020」を策定しましたので、本プログラムの概要をお知らせします。

【十和田八幡平国立公園のテーマ】

『みちのくの脊梁～原生林が彩る静謐の湖水、息づく火山と奥山の湯治場』

十和田八幡平国立公園は手つかずの広大な原生林が今なお残り、十和田湖、八幡沼をはじめとする湖沼や、奥入瀬溪流などの世界に誇る傑出した風景が四季折々の彩りを見せます。美しい風景や活発な火山現象を手軽に楽しむ環境が整っていることに加え、多彩な登山道があり、老若男女様々な人が自然の奥深さを堪能できます。個性豊かな温泉地が多く、長期滞在型の湯治場の独特な風景は、日本の貴重な文化景観とも言えます。また、ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類、イヌワシやホシガラス等の鳥類等、数多くの野生動物が生息しているのも魅力となっています。そこで、本公園を「満喫」していただくために、基礎的な資源である原生的な自然環境や風景を保全しつつ、広域にわたって連携する9つの取組を進めることにしています。

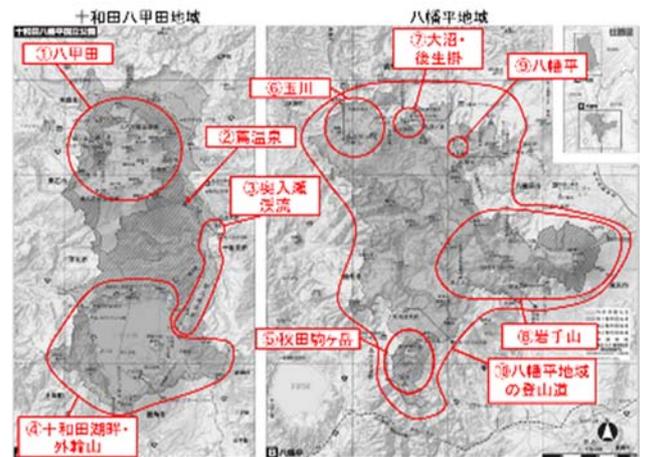


▲奥入瀬溪流



▲十和田湖

- ①多彩な登山道を活かします。
- ②冬季の楽しみを充実させます。
- ③温泉・湯治を楽しんでいただきます。
- ④手軽に原生的な自然・活火山現象を楽しんでいただきます。
- ⑤十和田信仰を体感していただきます。
- ⑥アクセスルートの景観向上・案内誘導の強化を行います。
- ⑦ビューポイント(重点取組地域)で集中的な取組を進めます。
- ⑧情報発信・プロモーションを行います。
- ⑨ターゲットのニーズを把握して取り組みます。



▲ビューポイント(重点取組地域)



▲岩手山焼走り溶岩流



▲八幡平自然研究路

(参考URL)

○十和田ハ幡平国立公園満喫プロジェクト ステップアッププログラム2020

[http://tohoku.env.go.jp/to\\_2016/2020.html](http://tohoku.env.go.jp/to_2016/2020.html)

○十和田ハ幡平国立公園

<http://www.env.go.jp/park/towada/>

## 推進室の一員となって①

東北圏広域地方計画推進室 副室長 菅原 克也

(東北運輸局 交通政策部 計画調整官)

4月1日付けで東北圏広域地方計画推進室の一員となりました菅原でございます。

3月までは、東北運輸局の自動車交通部旅客第一課に在籍し、バス事業の許認可業務を担当しておりました。4月からは、運輸局内での異動に伴う交通政策部業務とあわせて、当推進室業務を担当することとなりましたので、よろしくお願いいたします。

この度携わることとなりました東北圏広域地方計画は、東日本大震災からの復興を最優先課題として策定され、官民が一体となってハード面もソフト面も実に幅広い分野で取り組み、将来、人口減少・高齢化が進展する中でも東北圏が自立的に発展することを目指しているものと認識しております。

小職が今まで携わってきた業務と比較すると相当幅広い分野に及び計画であり、未知の部分も多数ございますが、関係者の皆様のご指導・ご協力をいただきながら計画の実現のため取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 推進室の一員となって②

東北圏広域地方計画推進室 副室長 伊藤 一哉

(東北運輸局 観光部 次長)

4月1日付けで副室長に着任しました伊藤と申します。皆様よろしくお願いいたします。

少子高齢化が進む人口減少社会の中で観光は、地方の活性化はもとより日本経済活性化の原動力となる極めて重要な成長分野であり、我が国の基幹産業の一つとして大きな期待が寄せられているところです。

最近の観光について申し上げますと、インバウンド（訪日外国人旅行者）が大変好調です。昨年訪日外国人旅行者数は過去最高の2403万人となっており、初の2000万人超えとなり、政府は2020年の目標を4000万人に掲げているところです。東北についても2020年の外国人宿泊者数について、2015年の3倍となる150万人泊を目指すことを目標に、東北の観光復興の取り組みを大幅に強化することとなっております。

甚だ微力ではありますが、観光による活力ある東北地域づくりに取り組むとともに、実効性のある東北圏広域地方計画の推進に向けて取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

ゴールデンウィーク皆様方は、ゆっくり休まれリフレッシュできましたでしょうか。

さて、昨年3月29日に、新たな東北圏広域地方計画が国土交通大臣決定されて早1年が経過しました。今年度は、計画のフォローアップにつきまして、構成機関の皆様方には、いろいろとご依頼することが多くなるかと思いますが、引き続きご協力をお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：thr-kou-suishin2@mlit.go.jp ※メールアドレスが変わりましたので、ご注意ください。